

「ロケハン」とは？

ロケーション・ハンティング(Location Hunting)の略。映画やテレビ制作のためのロケ地を探すこと。監督などが脚本などのイメージを元に撮影場所を選定する。映画やテレビドラマなどは複数回に分けてロケハンが行われる。候補地の選定は、制作担当がまず「下見ロケハン」「ロケ交渉」を行い、写真や動画で現場を記録。監督や撮影技師、照明技師、美術デザイナー、録音技師、チーフ助監督などからなるメインスタッフにプレゼンを行い、メインスタッフによるロケハン「メインロケハン」でロケ地が決定される。

ロケハンには、撮影時の機材の運搬や施設の確保、道路使用許可などの準備を容易にするため、地元のフィルムコミッションや自治体の担当者を交えて行われることが多く、地元の支援体制も選定材料の一つと言われている。



右の写真は、「主人公藤井と、ヒロイン佳美が住むアパート」という設定となった市内某住宅。上の写真は、川井石油白石中央SSでの撮影風景。通行する車や市民の方々の協力を得ながら、気温30度を超す炎天下で撮影が行われた。いずれの場所も、私たちにとっては普段の生活の中にある何気ないロケーションだが、撮影部隊によって瞬く間に映画のひとコマに。スクリーンにどう映るかとても楽しみだ。



ロケ地決定までの大まかな流れ



映画『100回泣くこと』には、昨年7月～8月に監督やプロデューサー、撮影スタッフなどに現地案内を行うなど積極的に白石をPRした。その甲斐あって、待望の白石ロケが決定。

映画『100回泣くこと』は、昨年7月～8月に監督やプロデューサー、撮影スタッフなどに現地案内を行うなど積極的に白石をPRした。その甲斐あって、待望の白石ロケが決定。

みやぎ・しろいしフィルムコミッションの活動と白石への効果

みやぎ・しろいしフィルムコミッション(以下、SFC)のスタッフは、昨年4月の設立時から、撮影誘致・支援体制の準備を整えるとともに、積極的に映画やドラマ、CMなどの市内ロケーションを各方面に提案してきた。

「悲しい題材ですが、永遠にされるように二人の新鮮な組み合わせに期待しています」と、大倉さんと桐谷さんとの撮影を心待ちにしていた。

原作者の中村さんは、「真摯でひたむきな大倉さんと桐谷さんに以前から注目していました。お二人を通して『100回泣くこと』を心から楽しみにしています」と期待。廣木監督は、「素晴らしい題材ですが、永遠にされるように二人の新鮮な組み合わせに期待しています」と、大倉さんと桐谷さんとの撮影を心待ちにしていた。

ロケ正式決定から撮影日まで1週間程度という過密日程の中、SFCのスタッフは制作側の要望を最大限叶えようと、地元関係各所の協力を得ながら、撮影のための各種申請や撮影場所の調整、宿泊先・エキストラ確保などの準備に奔走した。そして、8月～9月の2度にわたるロケ撮影期間中、50～60人に及ぶ撮影隊が白石市内に滞在した。

ロケ撮影による地元への経済効果は、100人の撮影隊が1ヵ月滞在すると約5,000万円とも言われ、ロケ撮影誘致における街の活性化への期待は大きい。その分、全国でもFCの活動が活発化し、撮影誘致はまさに激戦。ロケ撮影誘致につながるには、何よりも、白石に住む私たちが地域の資源を掘り起こし、たくさんの人が関わりながら白石の魅力をもっとPRしていくことが不可欠だ。

そして、ロケ撮影誘致を一つ一つこなすことで、「新しい風」が白石に吹き始めている。スクリーンやテレビに白石が映る喜びは、市民の皆さんの中にある「ふるさとの誇り」をくすぐる。SFCの役割はまさに映像と白石をつなぐパイプ役であり、今後、市民の皆さんとともに映像の力でどのように白石をPRしていくのがポイントとなる。

白石で待望の映画ロケ撮影！

映画『100回泣くこと』の撮影の一部を白石で実施
何気ないロケーションが瞬く間に映画のひとコマに

平成24年8月～9月、映画『100回泣くこと』の撮影隊が白石・仙台ロケのため宮城県を訪れ、白石市内の数カ所で行った。『100回泣くこと』は、累計60万部以上のセーiusを上げていく、人気作家中村航さん原作の純愛ラブストーリー作品。主演は『関ジャニ∞』の大倉忠義さん、ヒロインは桐谷美玲さん、監督は『余命1ヵ月の花嫁』や本年2月に公開された『きいろいゾウ』などの多数の感動作を手掛ける廣木隆一さんが務めた。

出演者／監督／原作者から寄せられた期待の声

撮影前、主人公藤井役を務める大倉さんは、「僕自身、これ

ほど深い恋愛ストーリーは初めての挑戦です。そして、その作品にスクリーンで初主演という形で務めさせていただくことになりました。素直にうれしいという気持ちとともに、原作・台本を読ませていただき、『本当の愛』ということについてあらためて考えさせられました。主人公の繊細な心の移り変わりや葛藤を表現できればと思います」と主人公と自身とを重ね合わせたコメントを寄せ、ヒロイン佳美役を務める桐谷さんは、「初めて本を読ませていただいた時、何気ない日常の中にある幸せをとても感じました。私が演じる佳美という役は、病氣と必死に闘う姿、彼を一途に思う健気な姿、彼と一緒に過ごしているときのかわいらしい姿…ど

白石の魅力は観光地だけじゃない!? まちの風景が映画の世界を盛り上げる

映画『100回泣くこと』

2013年6月22日(土)
全国ロードショー

出演：大倉忠義、桐谷美玲
原作：中村航
『100回泣くこと』
(小学館刊)

監督：廣木隆一
脚本：高橋泉
制作：「100回泣くこと」製作委員会
製作プロダクション：ダブ
配給：ショウゲート
映画公式サイト
<http://100kai-movie.com/>